



## 健康一口メモ

仙台市医師会  
広報委員  
氏家 裕明

新型コロナウイルス感染症ですが、一向に収束が見えてきません。感染者数は2021年、2022年ともに8月にピークを迎え、9月から減少傾向となりました。しかし、2022年はその減少は一時的で、その後、増加傾向(第8波)に転じました。ここにインフルエンザが重なったら大変です。

2019年から2021年の冬は、インフルエンザはほとんど認められませんでした。同じ呼吸器系への感染を起こすウイルスなので、同時流行はないものと考えていました。しかし、2022年の夏、南半球のオーストラリアでこの同時流行が起こってしまいました。それを考えると、今年の冬は日本でも同時流行が起こる可能性は否定できません。これまで、マスク着用や手指消毒、3密回避の徹底もあり、インフルエンザの流行が抑えられた可能性はあります。人流の増加やインフルエンザの流行が予測される中、インフルエンザに対する免疫が低下していると思われるので心配です。同時流行した場

### 新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行は本当に来るのか?

合、最も危惧されるのは医療現場の逼迫です。

もし発熱した場合には、幼い子どもや基礎疾患のある高齢者の方は、発熱外来を受診してください。一方、体力のある年齢が若い方で症状が軽い場合は、ご自宅で新型コロナウイルス抗原検査キットで検査をしてください。陽性の場合には解熱剤等で様子を見てください。陰性で熱が高い場合は、インフルエンザも否定できませんので、かかりつけ医に相談してください。同時流行の前に、新型コロナウイルス抗原検査キット(新型コロナウイルスとインフルエンザを同時に検査ができるキット)が購入可能になれば(そちら)と解熱剤を事前に準備しておく必要があります。

当面は、マスク着用や手指消毒、3密回避の徹底、積極的なワクチン接種で感染者数を増やさない事が最も大事だと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

〔氏家クリニック／若林区一本杉町〕



2022年11月30日 寄稿

## 中小企業・小規模事業者のみなさまへ

# 事業承継のお悩みや疑問、 お気軽にご相談ください。

[お問い合わせ]

仙台商工会議所 経営支援グループ  
TEL.022-265-8127

